

阪南大学 2023 年度事業計画実施報告 外部評価報告書

評価実施日：2024 年 9 月 6 日

評価項目：□教育内容 □研究活動

評価実施外部団体：松原市役所

評価者所属：市長公室企画政策課

氏名：磯野 紘一

2023 年度事業計画実施報告の外部評価を実施した結果、以下の通り報告します。

【総評】

大学生生活のスタートにおける学習面の躓きに対するサポートや、卒業後の社会生活を見据えた教養・キャリア教育の推進等、学生に寄り添う制度が充実しており、学生が意欲低下することなく在学期間を通じて大きく成長できる環境作りを重視し取り組まれている点が評価できる。

また、自治体や地域、企業と連携した教育を積極的に取り入れ、多くの学生に、地域交流や課題解決を通じた社会貢献の機会を提供するとともに、このような取組が阪南大学のブランド力の向上にも繋がっているものと考えます。その他、多くの取組において、設定した評価基準に対し「目標通り」以上を達成できている。

このような魅力的な施策が充実化されている一方で、一部については非常に勿体ないことに学生等の利用者にとり取組が十分届いておらず、活用率が目標未達のものも見受けられることから、それらについては、いかに確実に活用のメリットの情報を学生等に届けられるかの再考を要するものと考えます。

今後も、学生の成長を第一に捉え、地域や社会とともに更に発展を続ける大学運営に取り組まれます。

【各評価項目】

各評価項目は別紙を参照

以上

2023 年度事業計画実施報告 外部評価票

評価者: 松原市

評価項目	2023 年度事業計画(外部評価対象項目)
B-1	<p>教育活動の充実に向けた取組</p> <p>(1) 学部教育の充実と質の保証</p> <p>(2) 大学院の充実</p> <p>(3) 教育組織の充実</p> <p>(4) 地域連携の推進</p> <p>(5) 企業連携の充実</p> <p>(6) 生涯学習の充実</p>
評価点 (5段階:5 が最高 点、1が最 低点)	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
評価概評	<p>(1) 学部教育の充実と質の保証 高校と大学との教育・学習内容の変化に伴う離学者の増加を防ぐため、初年次から学生に寄り添った学力向上サポートができています。また、その他の能動的学習の促進、キャリア教育の推進・充実、AI・データサイエンス関連教育体制の整備、IRシステムの活用促進等の多くの項目において、目標以上の取組が実現している。一方、社会人としての教養教育(後期教養教育)の推進については、講座の受講者数が目標の30%程度に留まっており、22年度よりも減少している。実際に受講した学生からは高評価を得ている講座であるので、より多くの学生に周知できる方法を検討する必要があると考える。</p> <p>(2) 大学院の充実 社会科学系学生の「情報応用リテラシー」の受講率について、概ね目標通りと言えるが、重要科目である以上、受講率を向上させる必要性は高いと思われる。</p> <p>(3) 組織の充実 キャンパスの一元化、新学部の設置は予定通り進められている。</p> <p>(4) 地域連携の推進 市内商業施設でのイベントや、ボランティア活動に積極的に参加し、松原市や地域との協働・連携を実現している。今後も引き続き地域社会においても、活性・連携の中心的な役割を期待したい。</p> <p>(5) 企業連携の充実 多くのテーマに対して企業と連携して取組み、社会貢献を実現している。学生の教育の推進や、問題解決の基礎力の構築にも寄与している。</p>

	<p>(6)生涯学習の充実</p> <p>社会人を対象としたリカレント教育の推進について、当初の計画が後退してしまい、目標達成には届かなかった。2024年度は、AIに加え、投資といった関心の高いテーマを新設したことで、講座参加人数の向上に期待できるが、社会人に届きやすい周知方法の再考も必要となると思われる。</p>
--	--

- 各評価項目の取組みについて、取組みの状況、結果、課題等を客観的に評価してください。
- 評価項目は5段階評価点と評価の概評を記載願います。

2023 年度事業計画実施報告 外部評価票

評価者:松原市

評価項目	2023 年度事業計画(外部評価対象項目)
B-2	<p>研究活動の充実に向けた取組</p> <p>(1) 研究の推進</p> <p>(2) 研究支援体制の充実</p> <p>(3) 図書館機能の充実</p> <p>(4) 地域連携の推進</p> <p>(5) 企業連携の充実</p>
評価点 (5段階:5 が最高 点、1が最 低点)	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
評価概評	<p>(1) 研究の推進 助成研修制度について、2022年度0件であった継続件数が、2023年度は2件に伸展しており、研究活動の推進に本制度が効果的に活用されているものとする。</p> <p>(2) 研究支援体制の充実 AI・データサイエンス教育研究所主催のセミナーは目標通り開催されたが、研究会の定期開催が実施されなかった理由について明確にされたい。 研究成果の情報発信の強化については、「researchmap」の充実化を着実に図り研究や事務の効率化に活かされているほか、大学叢書の多数の図書館への寄贈など、阪南大学の更なる研究活動促進とブランド力・魅力向上に繋がっている。</p> <p>(3) 図書館機能の充実 図書館の在り方に変化を求められる昨今において、図書館システムのクラウド化と再構築が進められている。また、図書館資料の利用促進のため、「図書館クイズラリー」「読書マラソン」等、様々なイベント実施に取り組まれている点も評価できる。しかしながら、紙媒体の貸出冊数・電子書籍の利用総アクセス数とも停滞しており、今後の改善点について検討が必要と考える。</p> <p>(4) 地域連携の推進 経営相談について、学生相談件数は目標より下回ったが、総相談件数が目標を大きく上回っている点が評価できる。中小企業と学生の両者にとってメリットのある交流の場を、引き続き設けていただき、未来を担う学生には積極的に参画いただきたい。</p> <p>(5) 企業連携の充実 様々な自治体、企業と連携し、学生の成長だけでなく、地域や企業活動の活性化にも繋がる取組を実現されている。事業の成果、社会への影響・効果についても記述いた</p>

	だけると更に良いと考える。
--	---------------

- 各評価項目の取組みについて、取組みの状況、結果、課題等を客観的に評価してください。
- 評価項目は5段階評価点と評価の概評を記載願います。